

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 148 号

目次

1. 神戸北野町の歴史的建造物と街並みの見学会・・・1
2. 2026 年度総会（予告）・・・・・・・2
3. 学会誌『近畿の産業遺産』第 20 号原稿募集遅れのお詫び・・・・・・・2
4. 2025 年度年次大会講演会報告・・・寺島俊之・・・・2
5. 「年次大会・午前中の見学会」見学記・寺島俊之・・・・3
6. 大宮橋の講演会・現地見学会・報告・中元雄治・・・・4
7. 【出版物紹介】『動く橋の記憶-近畿地方を中心に-』『明石海峡大橋によろこそ！』『大阪府泉南郡熊取町大宮橋』・・・・・・・5
8. 学会誌の電子ジャーナル公開について・・・・・・・6
9. 2025 年度第 3 回役員会議事録・・・・・・・6
10. 2025 年度第 4 回役員会議事録・・・・・・・6

「神戸北野町の歴史的建造物と街並み」の見学会

神戸港は、開港（1867（慶応3）年）以降、横浜と並ぶ主要貿易港へと発展した。外国人居留地（1868（明治元）年開設）には商館が集中し、対外貿易の拠点として重要な経済的役割を果たした。1899（明治32）年の返還後、日本企業や実業家が入り込むようになってからも、大正時代・昭和初期にかけてビジネスの中心地として発展し続けた。

山手の北野町・山本通には、外国人住宅地（異人館街）が開発され、多様な西洋建築様式の建造物群が並び、独特の景観が形成された。また、建造物には日本と西洋の建築技術の融合が見られる。界限では、人々の暮らしが洋風生活様式と接触し、外国文化と交流を重ねることによって、神戸を特徴づける独自の都市文化が形成された。

今回の見学会では、北野異人館街をめぐり、代表的な建造物である風見鶏の館と萌黄の館の内部見学をします。また、山手通や、居留地と異人館街を結ぶメインストリートであったトアロードも巡り歩いて、近代神戸の歴史を刻む、歴史的建造物と街並みを見学します。

- ・開催日時：3月13日（金）
- ・集合：JR「元町」駅・東改札口，13：00
- 解説・案内：岡田幹事

・主な見学先（予定）

【往路】元町高架通商店街→トアロード→国営神戸阿利禰園跡（神戸北野ホテル周辺）→トアホテル跡（現・神戸外国倶楽部）→異人館街

北野異人館街（重要伝統的建造物群保存地区）：風見鶏の館（旧トーマス住宅，重要文化財，館内見学），萌黄の館（旧小林家住宅，重要文化財，館内見学），旧ハンター住宅跡地，旧トーセン邸跡など

【復路】神戸ハリストス正教会・神戸聖母就寝聖堂→一宮神社→生田神社・東門街（東門筋）など

- ・費用：入館料；風見鶏の館・萌黄の館，2館券 650 円，見学資料代；500 円

参加希望者は3月9日（月）までに事務局宛にメールか FAX でお申し込み下さい。

上り坂があるので、歩きやすい履き物でご参加下さい。



写真1 風見鶏の館（撮影：岡田広一，2026/1/27）



写真2 風見鶏の館 内部 (撮影：岡田広一, 2023/9/22)



写真3 萌黄の館 (撮影：岡田広一, 2023/9/22)

2026 年度総会 (予告)

共催：大手前大学史学研究所

開催日：4月25日(土), 見学会；10：30～, 講演会・研究発表講演会；13：30～

会場：大手前大学史学研究所 (3階, R33 教室(文化財化学実験室))

・見学会：10：30～ (予定), 大手前大学史学研究所
史学研究所施設の見学, 3次元計測と3次元モデル作成の紹介・解説を予定。

・会場受付開始：13：10

挨拶：中山会長, 司会：岡田副会長

講演会に先立って, 本会の総会議案に関する報告や質疑応答の時間 (13：00～13：20) を設けます。

・講演会・研究発表講演会：13：30～ (予定)

津守下水処理場・旧処理施設の調査参加者 (史学研究所関係者, 本会会員, NPO 法人阪神文化財建造物研究会会員) による報告を予定しています。

・費用：梗概・見学資料集代：500円

参加希望者 (オンライン参加も含む) は4月20日(月)までに, 事務局宛に「総会参加申込」(後日送付) タイトルのメールかFAXにてお申し込み下さい。

詳細は次号でご案内します。

学会誌『近畿の産業遺産』第20号

原稿募集遅れのお詫び

かねてから『近畿の産業遺産』第20号を創立20周年記念号として発行し, 会員のみなさまにご投稿をお願いする旨, 予告してきました。しかし, 第18, 19号の発行が大幅に遅れているため, 正式な依頼文書の発送を延期させていただきます。第18号に巻頭掲載写真に関連する原稿を追加したためです。みなさまにはお詫び申し上げます。第18, 19号を早急に発行してまいります。なお, 論文・調査報告・研究ノート等は下記の通り募集しています。

・申込締切日：

調査報告・研究ノートなど(論文以外)：2月28日

2025 年度年次大会講演会報告

寺島俊之

- ・開催日時：11月15日(土)
- ・会場：京都市国際交流会館・第1会議室
- ・参加者：17名
- ・司会：岡田副会長
- ・挨拶(13：15～3：25) (中山嘉彦会長)

産業考古学の将来展望として対象物の使われ方を今後の研究テーマとしたい。今回は舟運を支えた設備がどのような使われ方であったかに着目した聴講をお願いすると挨拶があった。

特別講演会(13：30～14：30)

「琵琶湖疏水の文化財的価値～国宝・重要文化財的価値に寄せて」

久岡道武氏(本会会員, 京都市上下水道局, 琵琶湖疏水記念館学芸員)



写真1 特別講演会 (撮影：寺島俊之)

蹴上インクラインは以下の2点で当時の世界記録を達成した。

- ・世界初の電気動力によるインクラインを実現。
- ・運河インクラインにおける世界最長を実現(約582m)。

明治時代に建設された疏水施設は灌漑用が主であり, 琵琶湖疏水は工業や水力発電, 上水道等用途として含めた都市型疏水施設であった。今回の国宝・重要文化財指定では近代における土木施設という点だけでなく, 明治日本に

おける都市基盤施設として、産業振興や文化に大きな役割を果たした点に意義がある。

これからの琵琶湖疏水には、現役のインフラ施設（水道・発電・灌漑）と近代化遺産・国宝重要文化財指定、ならびに日本遺産認定による地域活性化（びわ湖疏水船）という三本の柱によるバランス経営が求められると結んだ。

研究発表講演会(14:45~16:35)

①「蹴上インクライン建設当時の機械・電機・鉄鋼関連技術と産業の状況に関する一考察」(14:40~16:00)

溝口孝遠氏(本会会員, 元(株)神戸製鋼所機械研究所長)

運河用としては当時世界最長であり、おそらく世界初の電気動力を利用した鋼索鉄道となった蹴上インクラインの建設に際しての技術課題への取組みについて概説した。

土木遺産としての価値に加えて機械・電機・鉄鋼関連技術と産業との関係を示し、機械遺産としての側面にも注目すべきと提言した。

また、舟運による物流合理化への寄与だけでなく、当時の米国における水力発電の黎明期に早く、日本における水力発電への契機になったことも注目に値するとした。

②「ドラム工場の電気機器・設備にみる電動機と電力事業の変遷」(16:00~16:45)

二階堂達郎氏(本会会員)

1870年頃から20世紀初頭にかけて起きた「第二次産業革命」とも呼ばれる産業の急激な変革の中で、鉄鋼・化学・自動車・電気鉄道・通信などとともに、新エネルギー源として電気の利用が急速に進んだ。琵琶湖疏水の発電・電力利用には、この変革・変遷の過程が反映されている。この視点から琵琶湖疏水が持つ歴史的意義を改めてとらえ直すことができる。今回はドラム工場に残された電動機・減速機並びに電気設備一式を現地調査することによって、製造メーカーと製造年、ならびに電気的仕様を特定するとともに、供給される電力の時代的変遷も考察した。

「年次大会・午前中の見学会」見学記

寺島俊之

年次大会に先立ち頭記の見学会を開催した。

【見学先と見学行程】

- ・インクライン・蹴上船溜り付近(最初のドラム工場跡, 水中滑車・台車の展示, 蹴上発電所の取水口・送水管, 第一疏水第三隧道出口, 旧御所水道ポンプ室(遠景))
- ・南禅寺水路閣
- ・ねじりマンボ
- ・蹴上発電所(外観)
- ・琵琶湖疏水記念館・展示, ドラム工場(内部)

京都市市営地下鉄東西線「蹴上」駅改札口に10:00に集合。参加者は14名である。

蹴上インクライン沿いには疏水船乗り場までの案内標識が増え、観光事業の定着を感じた。大神宮橋(1923(大正12)年竣工)に立ち第三隧道出口(国宝), 旧御所水道

ポンプ室(重要文化財)を遠望する。なお、蹴上船溜りに注ぐ第二疏水・日岡隧道出口(重要文化財)は、その前の疏水船乗下船場が立入禁止であったため、目視困難であった。

大神宮橋は、インクラインの現役時期に疏水に架橋され、疏水船の通行や蹴上船溜りでの台車(積載/降車)業務の妨げにならないように、桁下空間を広く確保している。



写真2 疏水に架かる大神宮橋(撮影:寺島俊之)

次に、台車と水中滑車の屋外展示と隣接する本願寺水道水源地(1894(明治27)年竣工)を見学する。同水源地は、2008(平成20)年の運用停止まで東本願寺の防火用水として機能した。自然流下による高低差だけで放水可能であった。現在も本願寺(真宗大谷派)の管理施設である。



写真3 蹴上船溜りと台車の展示(撮影:寺島俊之)

疏水分線に沿って歩く途中、蹴上発電所の取水口・送水管を見学する。取水口にはゴミなどによる水車などの閉塞防止のためのフィルターが設置されていた。

南禅寺は京都を代表する紅葉の名所であり、特に水路閣はテレビドラマ「サスペンス劇場」の定番スポットでも有名である。独特の白っぽさは湿気による白華現象とされる。なお2008(平成20)年には煉瓦の一部に亀裂が発見されたため防護工事が施された。

南禅寺金地院の門前を通り「ねじりマンボ」に向かう。現在は琵琶湖疏水を取り入れた池水庭園が多数立地するが、当初の計画では疏水分線との高低差を利用した水車工場地帯の建設が予定されていた。

蹴上発電所の前を通り琵琶湖疏水記念館に入る。学芸員

の久岡道武様に、通常は立ち入りできないドラム工場内部と、特別展「琵琶湖疏水・出発の地～滋賀・大津から見た琵琶湖疏水～」の解説をしていただきながら見学する。



写真4 疏水分線を歩く（撮影：二階堂達郎）

ドラム工場は内部の清掃が行き届いており、一般入館者は入り口から柵越しで見学可能である。工場内には疏水船の台車を牽引するワイヤロープの巻上機（ウインチ）一式と付帯する電気機器と電源・制御装置（電気室）が残されている。電気室は、背面の受変電設備（受電電圧：3,300V・AC）と、前面に計器類やハンドルなどが組み込まれた操作パネルから構成されている。受変電設備の機器類はむき出しの状態（開放形）で配置されており、鋼板で周囲を囲ったキュービクルが登場する前の受変電設備として貴重である。

特別展「琵琶湖疏水・出発の地～滋賀・大津から見た展示資料」は以下で構成される。

- ・第一章：大津からみた疏水の風景
- ・第二章：滋賀県の反応と疏水工事
- ・第三章：琵琶湖疏水の玄関口・築地

37品目の展示資料のうち14品目が文化財指定における附資料である。なお、今回の琵琶湖疏水施設の国宝及び重要文化財指定において、疏水施設に関連する文書や備品等の合計337点が指定された。

12時過ぎに現地解散して午前中の見学会は終了した。ご案内いただいた久岡道武様に厚く御礼申し上げます。

大宮橋（熊取町）の講演会・現地見学会報告

中元雄治

11月22日、熊取町公民館「かむかむプラザ」において「大宮橋の歴史は1873年から始まっていた」と題する講演会と現地説明会が開催された。当日の参加者は町外から7名、町内から9名の計16名で、本会からも5名の参加者があった。講師は当会会員の中元雄治氏で8年前から熊取町の文化財保護審議会（会長：瀬川健氏、本会会員）委員をしており、現在は町内全域の土木遺産の調査を行っている。今回はその縁で講演をすることになった。

大宮橋は大阪府泉南郡熊取町大宮の（旧）国道170号に1931（昭和6）年に架けられた橋長21.6mの大阪府が管理す

る橋である。しかし、大宮橋の歴史ははるかに古く19世紀末に始まるのが土木学会関西支部の詳細調査で明らかになった。

大宮橋の前身は東海道線神戸-大阪間の旧十三川（別称・中津川）に1874（明治7）年に架けられた「下十三川橋梁」である。この橋は、十三川、神崎川、武庫川に架けられた三大長大橋のひとつで、1873（明治6）年にイギリスで製作され日本に輸入され、1874（明治7）年に開通したものである。新淀川の開削に關係して撤去された際に大阪府へ払い下げられ、30年間保管後に下路式から上路式に改造され熊取町内の大宮橋（旧橋は木造橋で1930（昭和5）年の災害で流失）に転用された。

下十三川橋梁から転用された橋は本橋のほかに十三大橋の南側に位置する浜中津橋があったが、この橋は現在、大阪府道および阪神高速道路の淀川左岸線工事で撤去され、倉庫に保管されている。そのため、現役で活躍しているのは大宮橋が唯一の橋で、94年を超える我が国最初の高架橋（かゝ）の鉄道橋記念碑的な長寿橋である。しかし、その歴史は5年前まで知られていなかった。

講演では製鉄と橋の歴史、鋳鉄橋、錬鉄橋、鋼鉄橋の国内外の歴史的な橋の事例紹介、トラス橋の発展、明治期に輸入されたトラス桁の概要などの基礎的な知識のほか、大宮橋の歴史的背景、特徴と価値、技術的な魅力、鉄の化学成分分析結果の国内外データとの比較・評価、文化財として保存と活用の必要性、保存活動開始の好機などの説明があった。現地説明会では町により設置された案内板や、橋を側面と橋上から見学しながら、構造の特徴・魅力、輸送・架橋方法についてされた。参加者からは輸送ルートとして全線開通（1930年6月16日）していた阪和電気鉄道の利用の可能性、リベット施工、橋歴版などについて質問や意見が出された。



写真1 講演会の様子（撮影：倉田 豊氏）

本会としても、熊取町と協力して、橋の貴重性や保存の重要性を広く周知し、社会と行政が一体となって大宮橋の保護や文化財指定が達成されるよう支援することが望まれる。2月19日（木）には熊取町にぎわい観光協会主催の「ボランティアガイド養成講座」が開催される。この橋を多くの方に周知して文化財として保存・活用を推進するた

めに、講演に使用した内容をまとめた冊子を制作し(【出版物紹介】欄参照)、販売している。



写真2 現地説明会の様子 (撮影: 倉田 豊氏)

【出版物紹介】『動く橋の記憶—近畿地方を中心に—』
(編著・出版: 本会会員 中元雄治)

「動く橋」の記憶—近畿地方を中心に—



1 序言
2 近畿地方の動く橋
3 近畿地方の動く橋の歴史
4 近畿地方の動く橋の現状
5 近畿地方の動く橋の将来
6 近畿地方の動く橋の調査
7 近畿地方の動く橋の調査結果
8 近畿地方の動く橋の調査結果(2)



本稿は著者のライフワークともいえる「動く橋」の調査研究である。今回は全国の動く橋について一覧表を更新するとともに、地方別の建設時期、形式や全国的な分布などの特徴を分析した。近畿地方についても同様な分析を行うとともに、特に写真や図面の収集を行った。さらにフェリー一施設の動く橋について調査の必要性を提起した。

(A4・24 ページ, フルカラー, 2025 年 11 月 9 日発行)
代金(1部): 600 円, 送料 300 円(部数により変更)
支払方法: 切手またはゆうちょ口座に振り込み
申込・問い合わせ先: [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

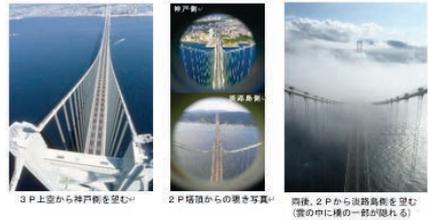
【出版物紹介】『明石海峡大橋ようこそ!』
(著者・出版: 本会会員, 中元雄治)

本稿は10月18日開催の当会の明石海峡大橋見学会をきっかけに作成したものである。橋の構造や橋に設置されて

いる設備のほか、橋の科学館で展示している歴史、調査・設計・建設・維持管理などのパネルや模型などを引用してその概要を簡単に紹介した冊子である。

明石海峡大橋ようこそ!

—明石海峡大橋・橋の科学館 見学ガイド—



(A4・12 ページ, フルカラー, 2025 年 11 月 14 日発行)
代金(1部): 200 円(特別価格), 送料 200 円(部数により変化), 支払方法: 切手またはゆうちょ口座に振り込み
申込・問い合わせ先: [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

【出版紹介】『大阪府泉南郡熊取町 大宮橋』
(著者, 出版: 中元雄治)

我が国最初の煉鉄製鉄道トラス橋のいま

大阪府泉南郡熊取町 **大宮橋**

—橋の歴史は1873(明治6)年に始まっていた—



(A4・28 ページ, フルカラー, 2025 年 12 月 1 日発行)
代金(1部): 700 円, 送料 300 円(部数により変更)
支払方法: 切手またはゆうちょ銀行口座に振り込み
申込・問い合わせ先: [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)提供の2025年10~12月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要。
・2025年10月(公開論文数: 26):
書誌事項へのアクセス数: 合計 263 回
全文PDFへのアクセス数: 合計 405 回

(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；33回、
全文PDF；77回)

・2025年11月（公開論文数：26）：

書誌事項へのアクセス数：合計 412回

全文PDFへのアクセス数：合計 501回

(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；44回、
全文PDF；94回)

・2025年12月（公開論文数：26）：

書誌事項へのアクセス数：合計 482回

全文PDFへのアクセス数：合計 448回

(アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；47回、
全文PDF；83回)

2025年度第3回役員会議事録

日時：9月17日(水)，19：00～20：00，オンライン。

参加者：中山会長，岡田副会長，貝柄幹事，寺島幹事，二階堂幹事，溝口幹事

議事：

1. 前回役員会議事録の承認

2. 見学会

[次回見学会] 見学先：橋の科学館・明石海峡大橋など。

日程：10月18日(土)，中元会員による解説，舞子公園内の建造物は個人見学。

3. 2025年度年次大会

日程：11月15日(土)，会場：京都市国際交流会館・第1会議室，企画内容について久岡会員に相談する。研究発表予定者は溝口幹事・二階堂幹事。見学会：ドラム工場内部見学を軸に打診する。

4. 学会誌20号[創立20周年記念号]原稿募集

執筆要領・依頼文書を秋期に会員へ配付。学会行事の際に参加者に伝える。投稿期限は2026年3月末。

5. 学会誌18・19号

18号は9月中に編集完了，10月刊行。19号も2025年度中に刊行。

6. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)

7. ニュースレター146号

9月下旬に発行予定。

8. 講演会

・泉南郡熊取町内大宮橋の保存・利活用

開催日時：11月22日(土)，13：00～，会場：熊取町公民館「かむいかむいプラザ」

9. 産業遺産学会2026年度総会

近畿地方で開催する案あり(2026年5，6月)

10. 調査・研究について(報告)

次回役員会(オンライン)：11月12日(水)，19：00～

2025年度第4回役員会議事録

日時：11月12日(水)，19：00～19：50，オンライン。

参加者：中山会長，岡田副会長，貝柄幹事，寺島幹事，二階堂幹事，溝口幹事

議事：

1. 前回役員会議事録の承認

2. 2025年度年次大会

日程の再確認，見学会(午前)；蹴上インクライン周辺・琵琶湖疏水記念館。講演(午後)；京都市国際交流会館・第1会議室。

・特別講演：久岡道武会員(琵琶湖疏水記念館学芸員)

・研究発表：溝口孝遠会員「蹴上インクライン建設当時の機械・電機・鉄鋼関連技術と産業の状況に関する一考察」，二階堂達郎会員「ドラム工場の電気機器設備と京都の電力事業の変遷」

3. 見学会

「明石海峡大橋・橋の科学館見学会」(10月18日)

参加者：15名。

次回見学会の見学先について意見交換。

4. 2026年度総会開催・議案議決方法

開催日程：2026年4月25日(土)13：30～。講演等未定。役員異動：会計監査1名[瀬川健氏]以外改選。

5. 学会誌20号[創立20周年記念号]原稿募集

詳細な募集案内を学会誌第18号に同封。

6. 学会誌18・19号原稿

18号は巻頭写真・写真欄を編集集中。19号は18号完成後に編集開始。2025年度中に刊行予定。19号の投稿予定者：中山会員，溝口会員，西川会員，貝柄会員。

7. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)

8. ニュースレター147号

11月1日発行。

9. 講演会

・泉南郡熊取町内大宮橋の保存・利活用

日程，会場を再確認。主催：泉南郡熊取町教育委員会。講師；中元雄治会員。

10. 産業遺産学会2026年度総会(報告)

開催日：6月6日(土)，7日(日)，近畿で開催。

11. 調査・研究について(報告)

次回役員会(オンライン)：2026年1月14日(水)，19：00～

2026年2月15日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL：http://kinias.jp

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室付

Tel：06-6381-8434(代)，Fax：06-6382-4363(代)

E-mail：kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号：00950-9-150085，加入者名：近畿産業考古学会